

# 1991年のチューリンゲン州学校改革と2015年のイエナのイエナプラン学校 船尾 日出志（愛知教育大学）

Die Reform des Bildungswesens in Thüringen 1991 und JENAPLAN-SCHULE JENA 2015  
FUNAO Hidesh

## 1 まえがき

2013年と2014年にコンスタンツのレーゲンボーゲンシューレという特別支援学校を訪問したのは、わたしの意識のなかでは必然的であった。2008年から3年間、愛知教育大学附属特別支援学校でお世話になったからである。それにたいして2015年9月にイエナのイエナプラン学校（以下、JPSと表記）を訪問しようと考えたのは、あくまでも偶然であった。しかし実際にJPSを訪問して、何か懐かしいものに、あるいは古い友人に再会したような感覚をもった。イエナが存在するドイツ連邦共和国のチューリンゲン州は1990年10月まではドイツ民主共和国（東ドイツ）に属していた。わたしは学生時代から愛教大に職を得るまで、ほぼ一貫して東ドイツ教育学に学んでいたのである。

1988年4月に愛教大に赴任したわたしにとって、1988年からおよそ2年間は実は、東ドイツを研究対象としていたがゆえに、辛い時期でもあった。1989年7月に東ドイツ市民の西ドイツへの脱出が始まり、同年11月にはベルリンの壁が崩壊した。1990年8月には両独政府がドイツ統一条約に調印し、同年10月には東ドイツは西ドイツに吸収合併されるという仕方で、ドイツの再統一が実現されたのである。「社会主義」ドイツは消滅してしまった。たぶんその当時のわたしは、アイデンティティ喪失状態であったと思う。悔しい思いもしたし、決して大げさでなく敗北感にさいなまれていた。

しかし1990年以降数年間に旧東ドイツ地域から刊行された学校教育に係る雑誌論文や出版物は、（もちろん変革期であったがゆえに）、読み甲斐があったし、むしろそれ以前よりも面白かった。東ドイツの中心的な、しかもっともポピュラーな教育雑誌（月刊）であった“Pädagogik”（『教育学』）も1990年9月号より“Pädagogik und Schulalltag”（『教育学と学校日常』）と名称を変えて継続的に刊行された。「硬直した教条主義的教育論文集から澁澗とした教育改革論文集」に発展したと感じたことを、よく覚えている。だからといって、敗北感が消えたわけでもないし、慰められたわけでもなかった。

そもそも東ドイツの学校教育や教育学は完全に否定されるべきものだったのか。西ドイツの学校教育と教育学を単純に移植すれば問題はすべて解決するのか。わたし自身は当時も、今でも、それらの問いに自信をもって「否！」といえる。東ドイツの学校（一般陶冶総合技術オーベルシューレ）は統一学校であった。西ドイツのそれは、基本的には三分岐制である。すなわち子どもたちは第5学年より基幹学校、実科学校、ギムナジウムに分割されたなかで教育を受ける。東ドイツの学校は総合技術教育を重視し、労働世界と結合していた。西ドイツのそれは、特にギムナジウムの場合は、労働世界から遊離した教養教育であった。なぜ東ドイツの教育学や学校教育が否定されるべきなのか。しかし1990年頃、そのような問題意識で論じても、おそらく「負け犬の遠吠え」、「ごまめの歯ぎしり」であると受けとめられたのだと思う。

今年（2015年）9月にイエナのJPSを訪問することで、わたしは、1990年当時のわたし

の問題意識が決定的外れでないことを確信することができたのである。そのことを具体的に報告する前に、ドイツ再統合の時期に戻ってみよう。

## 2 1991年のチューリングン州文部大臣へのインタビューから

『教育学と学校日常』誌の1991年6月号に、当時のチューリングン州文部大臣クリスチネ・リーバークネヒト (Christine Lieberknecht) とのインタビュー記事、「ショックとチャンスの中の学校」が掲載されている。

イントロダクションは次のようになっている。

「以前、皆は階級目標を知っていた。こんにち、以前のドイツ民主共和国に居住する皆は混乱し、そして戸惑っている。教師も保護者も生徒も。社会主義的陶冶体制は過ぎ去ってしまった。チューリングンでもそうである。つい最近、チューリングン州議会は集中的な論議の後、『暫定教育法』を決議した。古い学校はどのように清算されるのか。どの程度、古い学校はまだ生徒たちのランドセルのなかに、そして教師の頭脳のなかにあるのか。夏季休暇後の新しい学校はエアフルトやアイゼナハにおいて、イエナやワイマルにおいてどのような様子なのか。ルールプランや教育目標はどうか。なぜ教会は将来の宗教教育を批判するのか。学校はショックとチャンスの間にある。

キリスト教民主同盟の文部大臣、クリスチネ・リーバークネヒトにインタビューしたのはパウル・シュヴァルツであった。リーバークネヒトさんはちょうど33歳になったばかりの最も若いドイツの大臣であり、かつてはワイマルで牧師をなさっており、そして東ドイツ革命の闘士であった。1990年11月8日以降、かの女はキリスト教民主同盟と自由民主党の連立政府のなかで、1000校存在するチューリングンの学校のトップに位置する。」

リーバークネヒト大臣は西ドイツ在住のインタビュアーから多くの辛辣な問いを投げかけられているにもかかわらず、丁寧に回答している。(その抄訳を末尾に資料として掲載)

大臣の回答内容のうち、筆者が特に関心をもち、あるいは重要であると思えたものを箇条書きに紹介する。

i 体制の転換にあたり、個々の教師にたいする検証が実施され、職を失う教師が存在したことが分かる。政治的行動のみならず、道義的に問題のある行動についてもチェックされた。ドイツ社会主義統一党(共産党)の一党独裁体制から、自由民主主義体制への移行を確実に進めるためには、必須の手続きであったのだろうけど、もちろん個々の教師にとっては過酷なものであったと思われる。

ii 東ドイツには統一学校が存在した。西ドイツの中等学校制度は基本的に三分岐制であり、差別的であった。学校の制度だけを問題にすれば、明らかに東ドイツの方が進歩的、民主的であった。そのことは、東ドイツの教育者たちも十分に認識していたと思われる。したがって、チューリングン州での中等学校制度は、いわば折衷的に規則学校とギムナジウムという二分岐制として構想されたのであろう。しかも、その規則学校に、個別化の仕方を自ら選ぶ自由を与えられている。例えば総合学習の課程システムによってもよいとされている。大臣は「わたしたちはチューリングンにおいて自立的な学校システムを発展させています」と力強く述べている。そのような状況においてJPSのような学校もまた誕生し、存続することができたのである。(次節の写真②を参照のこと)

iii 大臣は社会主義教育の目標は決して達成できない幻想であったとする。社会主義教

育の結果として残ったのは、意見を述べたり、政府の見解に論争的に対応したりすることへの不安なのだ。筆者は、大臣がいう「社会主義教育」を“特定のイデオロギーや価値を押し付ける教育”であると理解したい。

iv 大臣は東ドイツ時代の「社会主義教育」にかわる新しい目標を「良識ある市民」とありとし、それは政治家や政党にたいして批判的であり、しかしその批判は明確な事実理解に基づくものでないとならないとする。そして良識ある市民を育てるために、「わたしたちは以前よりも、より多くオープンな授業を、より多くグループ教育やプロジェクト教育を、学校外の生活のより強力な編入を、総じてより多く創造性を必要とし」、さらに「民主主義理解、寛容、外国人同市民への理解 — それらはわたしたちの新しい道における重要目標」と述べている。この大臣の願いは、JPS において確かに実現されているのを、筆者は確認した。(次節の写真③と④を参照のこと)

v 大臣はコンピューター教育について、週の授業時数の制約があるので、その種の専門的教科は設置できないが、「基礎情報学と諸教科における深化」というモデルが目的に適っているとしている。この点についても JPS でその様子を垣間見ることができた。(次節の写真⑤を参照のこと)

vi 大臣は、1991 年という厳しい社会変革の時期にあったチューリンゲンで学校を組織することは容易でないとしている。もっともなことである。とはいえその 1991 年に JPS が誕生し、十数年後にはドイツ学校賞を得るなど、成功裏に現代でも運営されている。何より生徒と協力し、決して諦めない教師が存在したのだと思う。

1991 年の大臣の願いは JPS で一定程度、実現されているのを、24 年後に筆者は確認した。(次節の⑥校長先生との対話を参照のこと) 次節では 2015 年に戻ろう。

### 3 2015 年 9 月 9 日～9 月 11 日に船尾がみた JPS (写真と校長先生との対話の記録)

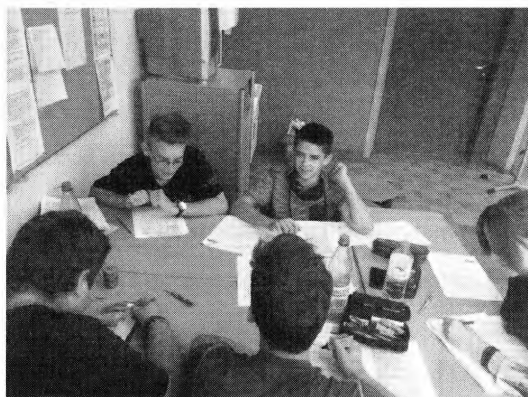
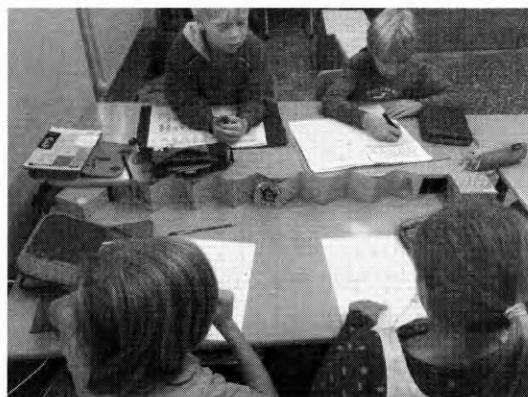
#### ① JPS の校舎 (東側)



- ② 幼稚園児のための教室（左）と上級ギムナジウムのプロジェクトの様子（右）  
幼稚園からアビツア一段階の子どもたちまで同じ JPS で学ぶ（共同体学校）



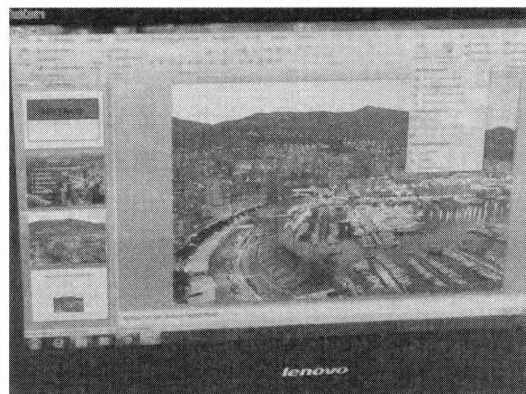
- ③ 1-3年生で構成されたモグラグループのグループ学習（左）と第10学年A組のドイツ語におけるグループ学習（右）



- ④ 上級ギムナジウムの歴史プロジェクト、フランスの雑誌に掲載された（ナポレオンに擬せられた）ドイツ連邦共和国のメルケル首相の風刺画（左）および3人の生徒グループの追究成果プレゼン（右）



- ⑤ 第4-6学年で編成されたカンガルーグループの地理学習ではコンピューターで追究活動をおこなわれていた。2人グループで関心のあるヨーロッパの特定国を調べていた。



⑥ JPSの校長先生との対話から

校長先生に校内を案内していただいたり、校長室でパソコン映像をもとに説明をいただいたりした。その内容の一部を紹介する。

船尾：JPSではもちろんペーター・ペーターゼンの教育思想をもとに実践がおこなわれているのでしょうか。



フランク・アーレンス校長先生

校長：イエナプラン学校はその名称が示すように、イエナプランを教育実践の基礎にしています。船尾先生はご存知だと思いますが、ペーターゼンは1923年にイエナプランを提起しました。そしてかれの理念は1991年にJPSのシステムの基礎とされ、そして発展させられたのです。イエナのイエナプラン学校の「イエナプラン」は新イエナプランなのです。その新イエナプランは、自発的、個別的、社会的・現実的、そして批判的な学習を可能とする学校構造と授業内容をもつ開かれた学校という主導思想に従っています。JPSは幼稚園および第1-13学年を包括しています。授業は子

どもに適合した仕方で構成され、すなわちプロジェクト定位的かつ教科超越的です。チューリンゲン州のすべての学校修了資格が得られます。

船尾：なるほど。ざっと校舎をみせていただきましたが、教室は日本のものとは違っていませんか。広いし、テーブルや椅子の配置なども違っていませんか。日本の学校の教室はたいいてい、一斉授業を想定していますので。





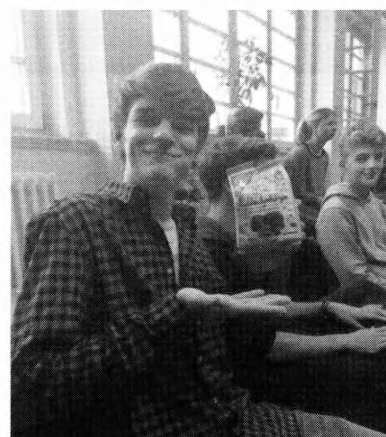
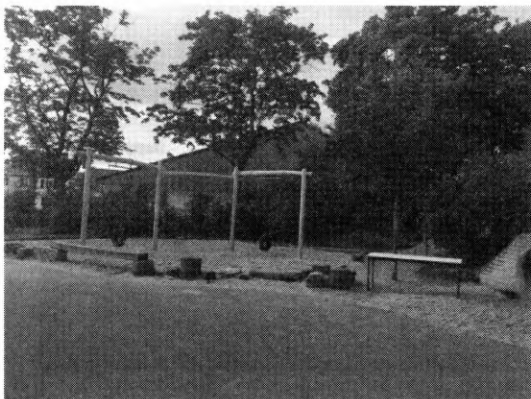
**校長：**たぶん学校のなかをご覧になって驚かれたでしょう。教室をみていただきますと、JPS の学びの場は特別に構成されていることが分かります。机はグループごとに壁際におかれ、それにより中央には椅子を輪に配置できる空間ができます。部屋のドアはたいてい開かれています。廊下には座ることができるイスとテーブルが設置され、そこでは生徒たちはいつでも静かに学習できます。図書室とコンピュータールームもまた調査や読書ができます。プロジェクト成果や芸術作品が壁のいたるところに飾られております。

**船尾：**校内には幼児からたくましい青年までいました。クラス編成でも特徴的ですね。その点は本来のイエナプランに忠実ですね。

**校長：**おっしゃる通りです。幼稚園から第13学年まで在籍しています。幼稚園児童たちのグループは“すずめ”とよばれています。第1-3学年で4つのグループが編成され、“クマちゃん”、“ハリネズミ”、“もぐら”、“ペンギン”という名称が与えられています。船尾先生が参観なさったのはホケ先生 (Sylvia Hoke) が担任をする“もぐら”でした。第4-6学年でもやはり4つのグループが編成され、“イルカ”、“タカ”、“カンガルー”、“オオカミ”という名称が与えられています。船尾先生が参観なさったのは“カンガルー”でした。そして第7-9学年でもやはり4つのグループが編成され、“チンチラ”、“ピューマ”、“サソリ”、“ディンゴ”という名称が与えられています。船尾先生は残念ながら今回、参観予定がありません。第10学年は原則として同一年齢でクラスが編成されています。AとBの2クラスです。船尾先生はフェルゲントレーガー先生 (Helke Felgenträger) が担任するAのクラスを参観なさいます。劇もご覧になる予定ですね。そして第11-13学年はギムナジウム上級段階です。

確か歴史のプロジェクトを参観されましたね。

**船尾：**そうです。生徒たちはまじめに取り組んでいましたが、かなりリラックスしていて、自由度がずいぶん高いと思いました。プロジェクトは100分の授業(8時~9時50分)でしたが、途中「朝食」の時間には先生も含めて、みなが水(ジュースやコーヒーかも)を飲み、お菓子を食べていました。実は授業再開後も、お菓子を食べながら学習していました。しかしみな真面目でした。そのようなリラックスしているが、しかし真剣に学ぶという様子がわたしには印象的でした。



わたしにお菓子をくれた生徒

**校長：**おそらく生徒たちを真面目にさせている要因の1つは、JPSの相互評価の文化だと思います。相互評価の文化は生徒たちの学習の喜びと学習の構えを促進しています。定期的な、個人の学習過程に常に伴っている自己評価と他者評価と並んで、とりわけセメスターごとの30分にわたる保護者を含めた証言的対話が効果的だと思っています。

**船尾：**校庭もみせていただきました。遊具が

充実しているように思いましたが、授業外の自由時間を子どもたちはどのように過ごすのでしょうか。

**校長：**JPS は授業外に多くの自由時間の営みを提供しています。校庭は心を込めて構成されています。ジャングルジム、滑り台およびブランコは憩いや遊びのためにあります。児童保育場は第4学年までの子どもの世話にあたります。バレーボール、木工作業、調理および裁縫というようなクラブ活動にはいつもたくさんの青少年が参加しています。サッカーのゴールやバスケットボールのバスケットを有している広場は、正しくはしゃぐために使用されます。さらには学校オーケストラ、さまざまなコーラスあるいはフルーツのサークルで音楽的な活動がなされています。

**船尾：**授業形態もまた独特でした。

**校長：**すでに説明いたしました3つの年齢集団で構成されたいわゆる常連グループにおいて、子どもたちは一緒に、選択されたさまざまな教科のテーマを探求します。そのテーマは学校によって定められた3年計画のなかで選ばれています。数学、ドイツ語および外国語というような教科では、同一年齢の者が同じ年齢のコースでも学びます。



そのような変化に富む授業形態は学習状況の多様性を大きくします。授業にはさらに月曜集会、学習時間および週の締めくくりの行事も属しています。

#### ⑦ イエナで撮った写真から





イエナの中心部にあるイエンタワー（128m）の展望台からみたイエナ市は美しい町でした。  
（展望台に上がるのに 3€）

イエナ西駅はワイマル駅から電車で 20 分足らずの距離です。この駅から JPS まで徒歩で 12 分ほどです。駅の壁にプレートが飾られていました。書かれているのは：



1933-1945

わたしたちのイエナ同胞市民を忘れないために。  
人種迫害を受けたユダヤ人、ロマ人およびジト人  
ここからファシストの殺人強制所に移送された。  
（なお、ロマ人とは非ドイツ系ジプシー、ジト人とはドイツ系ジプシー）

〔“ジプシー”は差別的表現です！船尾〕

付記：JPSにて取材した内容、撮影した写真を論説に掲載することについては、現地で直接許可をえています。



資料『教育学と学校日常』誌の1991年6月号に掲載された、当時のチューリンゲン州文部大臣クリスチネ・リーバークネヒト (Christine Lieberknecht) <sup>1)</sup> とのインタビュー記事、「ショックとチャンスの中の学校」<sup>2)</sup> の抄訳 (下線は船尾によるもの)

### ① 統一学校の清算，教員の処遇をめぐる

問：「清算」は流行語になっています。旧東ドイツの多くのものが清算されています。SED (共産党) の独裁国家の学校を、あなたはどのように清算なさいますか。

答：わたしたちは統一学校をもっていました。それは統一イデオロギーにもとづき、統一的な綱領と統一的な教科書を有していました。その背後には統一国家が存在していました。統一学校は統一国家とまったく同様に解消されねばなりません。わたしたちは、自由・民主主義的法治国家のなかに新しい個別化された学校制度を構築しようとしているのです。それゆえ、目下、変革と不安の気持ちが多く生徒と保護者、何より教員の思考と感情を特徴づけています。というのは、教員は将来どこで自分が教えるのか、あるいはそもそも自分は教えることが許されるのか、知らないからです。

問：確定されている検証手順を教えてください。

答：はい。教員の専門的資格と政治的資格を確認する検証委員会が存在しています。東ドイツには低学年段階<sup>3)</sup> 諸教科のための「教員陶冶学校」、教育大学あるいは総合大学のような通常の養成場が存在しました。しかしそれらと並んで、ピオネール学校、軍隊アカデミーあるいは党大学でも教員資格が付与されていました。後者については、わたしたちは十分な専門資格であると考えていません。そのほかの検証は教員の過去の政治的行動にかかわっています。

問：どういう組織に所属していたのかということだけで、教師が雇用されないということはあるのでしょうか。

答：いいえ。しかし当時の国家政党、つまりドイツ社会主義統一党 (共産党) でどんな職務にあっていたのかは問題になります。いずれにせよシュタージ、つまり秘密警察での活動は論外です。特に検証されるのは、学校における以前の党書記、長年にわたる以前の校長たち、郡庁や県庁の以前の人民教育局で長く協力した人たちです。

問：検証委員会はどのような人たちで構成されているのでしょうか。

答：郡の学校局長、郡議会教育委員会のメンバー、郡人事協議会議長、保護者代表および職員会議が選んだ信頼できる教員で編成された委員会が、教師の政治的潔癖さを、その教師が提出したアンケート結果をもとに検証します。それ以上に、その専門委員会はその他のよく知られた証明可能な諸事実もまた決定に際して考慮しなければなりません。教師の道義的に問題ある行動への指摘は、たとえその教師がドイツ社会主義統一党員でなかったとしても、詳しく調査されないといけません。例えば生徒が政治的理由で大学進学が阻止されたとか、生徒が好ましくない発言のために過酷に罰せられたとか、あるいはそれどころか保護者が教師の密告にもとづいて不利益をこうむらざるを得なかったとか。

問：あなたはその「検証」に何を期待していますか。決定的な証拠についてすでに以前から廃棄されており、そしてアンケート調査には粉飾して回答されるだけであるとは思いませんか。

答：検証そのものはきっとたいいていの人によって受け入れられます。結局まずは安寧

を学校の中にもたらし、そして相互の疑念を終わらせるために。その手順についてはもちろん論争があります。ある人々は、潔白証明書などはまったく何の役にも立たないと語り、他の人々は、すべてを告白しなければならないとき、「いやがらせだ!」と語ります。わたしたちは予備折衝で大きな苦心をしてきており、そして検証手順については教員連盟や労働組合とも協議します。

問い：何パーセントほどの免職を、あなたは想定していますか。その労働法的に裏付けられた多くの教師の非雇用は、ポストを減らしたり、ないし無くしたりというあなたの財政計画におおいに合致するのではないのですか。

答え：わたしはここでは数字を言えませんし、そして言うつもりもありません。というのはその数字は純粹に思弁的なものになるからです。わたしたちが教師のポストを削減しなければならないということと、検証は何も関係しておりません。それら2つの領域は、検証の客観的な実施のためにも明確に区分されねばなりません。わたしたちは、教師を辞めさせるという目標で検証するのではなく、専門的な資質が高く、そして政治的に誠実な教師が授業を行う学校を得るために検証するのである。

問い：多くの教育者にとって今や、9月以降どのような形態の学校に通うべきかを生徒たちのために提案しなければならないという要請もまた、さらに別の負担になります。チューリンゲンにおいて新たに個別化された学校システムはどのようになるのでしょうか。

答え：わたしたちは、旧西ドイツにはない学校モデルを發展させています。それは統一学校でなく、個別化された学校制度であります。しかし基幹学校と実科学学校とギムナジウムという伝統的な三分岐制にはもとづかず、個別化された学校制度をチューリンゲンの諸前提と結合しようとしています。わたしたちは、4年制の基礎学校の上に、規則学校とギムナジウムをもつことになるでしょう。

問い：その新しい教育システムのなかでは進路をいつ決定するのでしょうか。

答え：基礎学校の後、しかし規則学校ではさらに第6学年ないし第10学年の後です。「暫定教育法」で、わたしたちは規則学校に意識的に、個別化の仕方を自ら選ぶ自由を与えています。例えば総合学校の課程システムによるとか。

問い：基礎学校諸教科の評定はギムナジウムに進むためには2よりわるい点数であってはなりません。もしそれよりわるい点数であるとき、生徒たちはいずれにせよ試験を受けねばなりません。子どもたちへの心理的圧力は大きすぎることはないでしょうか。そしてもしそうなら、将来的に学校の推薦状をもらわずに交付しないというラインラント・ファルツ州のような規制は、子どもたちにとって、より好ましくはないでしょうか。

答え：わたしはギムナジウムに進む際のそのような規制を正当でそして教育学的に是認できると考えています。わたしたちはまさに、たった8歳の時点でアビツァーへと導くべきギムナジウムへの進学が問題になっていることを忘れてはなりません。実際にギムナジウムに適している子どもたちは入学試験に不安をもってはなりません。わたしは学校諸部局に、個々のケースの特別な事情を場合によっては試験結果の確定において考慮するよう配慮することを指示しています。

## ② 進路決定の主体について

問い：チューリンゲンの「新しい学校のための同盟」は新しい教育法を次のように批判的にコメントしています。「規則学校令はチューリンゲンの父母を子ども扱いしている。進

路決定について、以前の東ドイツ時代のように国家の指令によって決定されるのだ。」

答え：それはまったくの誤りであり、そしてわたしにとっては「くだらない論争」というカテゴリーに属しています。何よりも、統合された総合学校ではあたかもいかなる等級分け、あるいは等級変更がないかのようにされています。規則学校はチューリンゲンでは、総合学校で普通であるようなものに定位しています。

問い：あなたには、統一学校後すべての父母がわが子をギムナジウムに進学させ、そして規則学校が、少なからずの旧西ドイツにおいて基幹学校がそうであるように、干からびてしまうという心配はないですか。

答え：さまざまな才能が、そしてそれらの才能にたいするさまざまな形の要求が存在しています。今、ギムナジウムの門戸をできるだけ広げるということは、生徒たちの利益になっていない。というのはその場合ギムナジウムは統一学校になってしまうからです。さらに一まさに手工の領域では見習い養成のポストが定員割れをおこしうるとき、多くの失業した研究者たちないし大学中退者たちは、わたしたちを助けてくれるのではないのでしょうか。

問い：あなたはアビツアーの割合をどのように想定なさっていますか。過去には、拡大オーベルシュレー (EOS) を経由してアビツアーに進んだ者は同一年齢のおよそ8%でした。

答え：わたしは、ギムナジウムへの入学について、同一年齢の約30%に落ち着くだろうと思っています。その場合、どれくらいの数の生徒がアビツアーに合格するのかは、わたしは分かりません。いずれにせよ、わたしたちはアビツアー合格基準に関して、甘いプレーメンよりもむしろ厳格なバイエルンに定位するでしょう。

問い：どれほど多くの若者たちは13年間でなく、12年間学校に通うのですか。旧西ドイツでは13年間でした。あなたはそれをどう思われますか。

答え：チューリンゲンでは12年制と13年制が併存します。12年制は、第5学年からギムナジウムに通う生徒向けです。規則学校を修了し、そしてその後3年制のギムナジウム上級段階に進学する生徒たちにとっては13年制の学校です。しかしわたしには、そのための能力がある生徒にとっては12年制が許され、そしてもう1年必要な生徒にとっては13年制が許されるという自由が大切であると思われるのです。

### ③ 「社会主義人格」への教育

問い：教師は、チューリンゲンでは、つい最近までまだ「労働者階級の受託者および共産主義思想の仲介者」であったのですが、今日ではどうでしょうか。

答え：東ドイツには40年間の歴史があります。個々人はそれにさまざまに関与していたし、そして東ドイツとの同一化はさまざまです。かなりのことが相当に内面化されています。たとえば教科書のことを考えましょう。過去において統一学校図書を作成していた「人民と知識」出版社は、図書の改定に努めています。その首尾はさまざまです。若干の図書は使用可能であり、そしてわたしたちの新しい社会体制に適っています。その他の図書の場合は、うまくいかないのです。地理教育においてイギリスの苦悩する労働者の困窮のみが教えられ、そしてルーマニア、ブルガリアが今なお東方の太陽の光輪のもとでみられるということがあってはなりません。さらに、発問はもはや明確な解答を示唆してはならず、論争の可能性を開いていなければなりません。

問い：社会主義人格が以前の教育の目標でした。そこから何が生じましたか。そしてい

かなる新しい教育目標が、今やそれにとってかわるのですか。

答え：最初に、社会主義教育が希望もなく失敗した（さもないければ、今回のような崩壊はあれほど大がかりに起こることはなかったでしょう）ということを確認しなければなりません。社会主義教育の目標は、決して達成されえない幻想です。残ったのは、意見を述べることへの、例えば州政府の見解に論争的に対応することへの、ただちに肯定的に発言したり、しかしまたそれに非民主的でなく反抗したりすることへの不安です。

問い：すべてがどれほど悪かったのかを、そして東側のあらゆる人はもっぱら西側の「安寧」を羨ましがっていると常時間かされているとき、多くの教師と生徒において自己肯定感が欠落せざるをえないのではないのでしょうか。劣等感が生み出されないのでしょうか。

答え：しかしすべてが悪かったわけではないという意見は学校実践家のなかでかなり普及しています。わたしたちは外からの影響を受けすぎており、そしてわたしたちには合わない学校システムを強要されているという感情もあるようです。しかしそれは正しくありません。すでにお話ししておりますように、わたしたちはチューリングゲンにおいて自立的な学校システムを発展させています。

あなたが言及なさった新しい教育目標にかかわっては、わたしは、自由民主主義体制のなかでみることができると良識ある市民を考えています。その良識ある市民はまた政治家や政党にたいして批判的であり、しかしその批判は明確な事実理解に基づいています。わたしは、習得した知識を社会で活用する生徒のことを考えています。わたしは個人的に、何よりも基礎学校では、安心感や郷土との結合によって刻印された全体的教育を擁護しています。それによってその後の学歴において柔軟性や可動性が加わり、最終的に産業社会やヨーロッパの要請に応えることができると思うからです。わたしたちは生徒たちに、相対的に早く自主的に専門的諸領域に慣れることができるよう、さまざまな方法を授けねばなりません。わたしたちは、今後は、恒常的に拡大する知識に恒常的に増大する教材の量で対応してはならないのです。

問い：すると方法的・教授学的に教師には何が大切になるのでしょうか。

答え：教師にとって、そのことは無理やり叩き込む教育や一斉授業からの離脱を意味します。すべての教員は、そしてそのことは継続研修の主要目標なのですが、学習グループにおける力動的過程を、グループ心理学的諸認識とともに教えられねばなりません。そのことは過去にはほぼ欠落していました。しかし何よりも教師に、生徒たちと自由に接する能力を付与しなければなりません。わたしたちは以前よりも、より多くオープンな授業を、より多くグループ教育やプロジェクト教育を、学校外の生活のより強力な編入を、総じてより多く創造性を必要とします。民主主義理解、寛容、外国人同市民への理解 — それらはわたしたちの新しい道における重要目標です。

問い：にもかかわらず以前の東ドイツの学校制度から維持に価値するのは何でしょうか。

答え：生徒たちを労働世界に親しませることを、そのことは以前の総合後術教育の肯定的中核であったのですが、わたしたちは基幹学校において「経済と技術」という教科のなかで維持しています。ギムナジウムでは「経済と法権利」という名称の教科です。それとやらんで、個別化された提供をおこなう職業ギムナジウムが存在することになるでしょう。しかしわたしは、基幹学校で意味あるようなあらゆる実践的諸能力をもまた形成することは、大学へと準備するギムナジウムの課題ではありえないと考えます。



しばしばきわめて肯定的に提唱されております全日学校に関しては、わたしたちは過去にも有したことはありません。午前に授業、そして午後は自由時間の世話がありました。将来もまた基礎学校ないし特別支援学校は、需要があるところでは、学童保育所と結合されるでしょう。

問：学習指導要領とその主眼点について語りましょう。学習指導要領はどの程度グリーン、つまり環境保護的ですか。チューリンゲンの学校における環境教育に、どれほど力を入れていらっしゃるでしょうか。

答：チューリンゲン州における新しい学習指導要領の完成までには、もうしばらくかかりそうです。わたしたちは暫定的に指導要領大綱しか発表できていません。わたしたちは第7学年から個別的に次のように提供します。基幹学校修了のために「経済と技術」を、そして実科学校卒業資格のために週3時限授業されるプロジェクト教科である「経済、環境、ヨーロッパ」を。そこには、新しい連邦諸州（旧東ドイツ地域）において緊急に必要な環境教育のための特別な余地があります。それゆえ環境問題はそれに適したすべての教科で重要な役割をえんじるのです。

問：情報工学教育についてはいかがでしょうか。

答：情報学はわたしたちの自然科学系教師たちのなかですでによく発達しています。わたしたちは情報学という自立した教科はもちませんが、しかしあらゆる生徒のために第7学年段階における情報工学的基礎コースを、ならびにさまざまな教科、例えば「経済と技術」および「経済、環境、ヨーロッパ」のなかで重点をもちます。

問：どのような考察が、コンピューター教育という固有の教科を樹立しないという結果へと導いたのでしょうか。

答：わたしたちは一定の週当たりの授業時間数を超えられません。ギムナジウムですでに週33時間で上限です。それに、わたしたちはまたなお、意味が豊かで、そして簡単には捨てられない過去からの諸教科、例えば天文学を有しています。わたしたちは伝統に従って自然諸科学に大きな力点をおきます。わたしたちは旧西ドイツ諸州よりも多くの生物学および化学の授業をもっていましたし、そしてもつことになるでしょう。新しいことは、語学教育の強化です。ロシア語は残るでしょう。フランス語は増えるでしょう。英語は確実にたいの生徒にとって第1必修外国語になるでしょう。新たに、わたしたちは「経済と法権利」という教科を採用しています。そのことから、そしてまた専門的な理由から、わたしたちは「基礎情報学と諸教科における深化」というモデルをもっとも目的に適していると思っています。

問：あなたがたによって志向されている宗教教育は論争のなかにあります。対立意見は野党や連立パートナーの自由民主党の側からだけでなく、教会の側からもあります。あなたは、しかし多年にわたって国家に命令された無神論のせいで、価値観の崩壊に、そしてそれをもって同じく無神論的諸傾向にたいして不可解に、無構想に対峙している教会の拒絶的態度の原因をどこにみていますか。

答：あなたは教会の拒絶的態度について語られましたが、それは当たっていません。もちろん一方では、他のイデオロギーが、総じて一つのイデオロギーがいた地位に今とって代わらねばならないということへの確かな嫌悪感は、感じられます。わたし自身はそのような危険性を想定していません。というのは、宗教教育はおよそ価値観媒介とかかわら

ねばならず、そして何よりも自由の基盤のうに構築されるからです。他方では学校の宗教教育は少なからずの教会の協力者たちの問題でもあります。その協力者たちは、過去、非常に保護された教会の空間のなかで活動していたのですが、今や社会的に働き、そして学校の要求に対応すべきなのです。

問い：多くのドイツ人は現在、増大する失望と悲観のなかで生活しています。東方のドイツ人は混迷し、そして将来への不安をもっています。どの程度、学校教育はここでそのような流れに対処し、そして希望を作り出せますか。

答え：目下チューリングゲンでは、学校を組織することは容易ではありません。しばしば今日の時点でも、明日がどのように構成されるか分からないのです。多くの人は、生存の諸問題が解明されるまで、まずは待ちたいのです。このような厳しい社会変革のなかでは、学校が日々、そして日々の生活がいわばノーマルに進行するということは自明ではないのです。方向性を見失っている多くの人が存在します。しかし生徒たちと協力して、過去を総合的に考察しようとしている多数の教師も存在しています。そして教師が諦めず、そして生徒たちも落ち着いている学校が存在しています。

註

1) 1958年ワイマルで生まれ、ワイマルの牧師であったが、東ドイツ「革命」では中心的に働き、政治家に転じ、1990年に33歳という若さでチューリングゲン州文部大臣となった。結局1990年から1999年まで、および2009年から2014年まで文部大臣の職責を全うした。その間の時期、つまり1999年から2009年までは同州の社会大臣であった。党派的にはキリスト教民主同盟に属している。

2) Schule zwischen Schock und Chance. In: Pädagogik und Schulalltag, Heft 6/1991, S. 695ff. なお、インタビュアーはパウル・シュヴァルツ (Paul Schwarz) 博士で、バーデン・バーデンの放送局第3チャンネルの学校教育に関するシリーズ番組のなかでのインタビューであった。

3) 東ドイツでは10年制学校のうち4年生までを低学年段階と称した。西ドイツの基礎学校に相当していた。